

- 1 「衛生」ということばを中国の古典から見つけ出して使った人はだれか。
- 高木兼寛
  - 北里柴三郎
  - 長与専斎
  - 後藤新平
  - 福澤諭吉
- 2 介護保険について正しいのはどれか。
- 保険料は全国一律である。
  - 被保険者は60歳以上である。
  - 保険料は5年ごとに見直される。
  - ケアプランはケアマネジャーしか作ることができない。
  - 要介護度の認定に当たっては主治医の意見書が参考資料となる。
- 3 診療録について正しいのはどれか。
- 医師以外も記載できる。
  - 患者が死亡すれば廃棄できる。
  - 保存は医療機関内に限られる。
  - 患者の請求でも開示する必要がない。
  - 電子媒体による保存は認められていない。
- 4 医療計画について正しいのはどれか。
- 医療計画は厚生労働大臣が作成する。
  - 二次医療圏は都道府県とほぼ一致する。
  - 医療計画は10年ごとに見直さなければならない。
  - 半数以上の医療圏で基準病床数は満たされていない。
  - 医療計画には医療従事者の確保について記載しなければならない。
- 5 世界保健機構〈WHO〉について正しいのはどれか。
- 二国間協力が主である。
  - ポリオの世界根絶を達成した。
  - 開発途上国への食料援助を行う。
  - 国際疾病分類〈ICD〉を定めている。
  - 労働者の健康保護について勧告を行う。
- 6 労働安全衛生法の定期健康診断の対象者で正しいのはどれか。
- 主婦
  - 中学教諭
  - 派遣労働者
  - 農業従事者
  - 医学部6年生
- 7 コホート研究に関して正しいのはどれか。
- コホート研究は、稀な疾患の研究に適している。
  - 調査票を作成した者が、データ分析を行うことが望ましい。
  - コホート研究は、症例対照研究に比べて一般的に費用がかかる。
  - 過去の検診歴を閲覧して、住民の健康状態について分析した場合、前向きコホート研究という。
  - 前向きコホート研究において研究対象者から聴取し忘れた内容は、分析をする直前にまとめて聴き直す。
- 8 生後30日の新生児。1か月児健康診査を受けに来た。児は在胎38週、出生体重2,900g、Apgarスコア9点（1分）で出生。母乳栄養で最近は、1日8、9回哺乳している。来院時体重4,100g、黄疸を認める。便は緑黄色水様で軽微な酸臭があり、1日5回程度。母親は黄疸の存在、下痢便、アレルギー体質、体重増加不良などの不安を訴えている。
- 今後の栄養法について最も適切な指導はどれか。
- 離乳食を始める。
  - 人工栄養に変える。
  - 母乳栄養を続ける。
  - アレルギー用ミルクに変える。
  - 母乳栄養を続けながら人工栄養を加える。
- 9 精神保健福祉の現状について正しいのはどれか。
- 精神科病院の半数が公立の病院である。
  - 精神疾患の外来で最多は統合失調症である。
  - 入院形態では任意入院が9割を越えている。
  - 精神病床の平均在院日数は300日を越えている。
  - 日本における人口当たりの精神病床数は欧米と比べて少ない。

10 ノロウイルスに対する消毒方法で正しいのはどれか。

- a 乾熱滅菌
- b ポビドンヨード
- c 消毒用エタノール
- d 次亜塩素酸ナトリウム
- e グルコン酸クロルヘキシジン

11 業務上の膀胱がんと認定されるがん原性物質はどれか。

- a 石綿
- b ベンゼン
- c  $\beta$ -ナフチルアミン
- d 塩化ビニルモノマー
- e ビスクロロメチルエーテル

12 内喉頭筋のうち、声門の開閉に関わらないのはどれか。

- a 輪状甲状筋
- b 後輪状披裂筋
- c 外側輪状披裂筋
- d 外側甲状披裂筋
- e 横および斜披裂筋

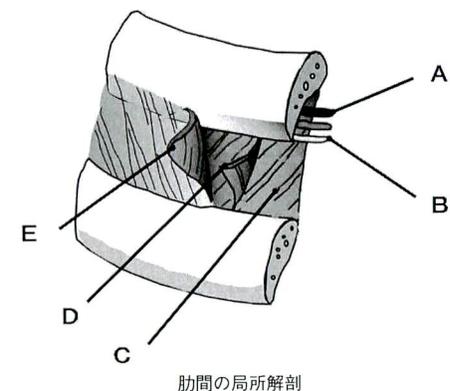
13 眼圧上昇により、障害を受ける組織はどれか。3つ選べ。

- a 角膜
- b 虹彩
- c 水晶体
- d 硝子体
- e 視神経

14 肋間の局所解剖を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a A-----内胸動脈
- b B-----肋間神経
- c C-----最内肋間筋
- d D-----前鋸筋
- e E-----広背筋



15 肺の細胞と機能の組み合わせで正しいのはどれか。

- a 杯細胞-----膠原線維産生
- b クララ細胞-----セロトニン分泌
- c 肺胞マクロファージ-----サーファクタント分泌
- d I型肺胞上皮細胞-----ガス交換
- e II型肺胞上皮細胞-----細菌貪食

16 尿生成について正しいのはどれか。

- a 糸球体毛細血管圧は、糸球体濾過量を決定する因子である。
- b 輸入細動脈と輸出細動脈を流れる血漿流量は等しい。
- c 糸球体濾過量が増加しても近位尿細管の再吸収量は増加しない。
- d 利尿薬は、尿細管の水チャネルを阻害する。
- e 低張尿生成時の腎髄質間質は、低浸透圧である。

- 17 満腹時に活性化される酵素はどれか。
- アシルCoAシンターゼ
  - アセチルCoAカルボキシラーゼ
  - アデニル酸シクラーゼ
  - グリコーゲンホスホリラーゼ
  - ホルモン感受性リパーゼ
- 18 妊娠による母体の変化で正しいのはどれか。
- 血圧は上昇する。
  - 機能的残気量は増加する。
  - 凝固能は亢進する。
  - 糸球体濾過率は減少する。
  - 消化管蠕動運動は亢進する。
- 19 骨産道について正しいのはどれか。
- 入口部は横径より縦径が長い。
  - 解剖学的真結合線は産科学的真結合線より短い。
  - 産科学的真結合線の平均は9.5cmである。
  - 潤部前後径は真結合線より長い。
  - 骨盤誘導線の変換点は峽部下方に一致する。
- 20 産褥について正しいのはどれか。
- 子宮底は産褥5日後には触れなくなる。
  - 血性悪露は4～6週で消失する。
  - 妊娠線は黒色の瘢痕となる。
  - 初乳には分泌型IgAが多く含まれる。
  - 成乳にはビタミンKが多く含まれる。
- 21 正しいのはどれか。
- 大泉門の閉鎖は2歳まで認められる。
  - 通常胎便は生後48時間以降に見られる。
  - 正常新生児は胸囲よりも頭囲のほうが小さい。
  - 新生児期の最も多い黄疸の原因は溶血性黄疸である。
  - 生後3～4日で体重は約10%を越えない範囲で減少する。
- 22 正しいのはどれか。
- 男女とも二次性徴の出現とともに骨密度は低下する。
  - 男性の思春期は精子形成能が成熟した後から始まる。
  - 生物学的思春期は二次性徴の開始から妊孕性の獲得までをさす。
  - 思春期の成長ホルモンの脈動的分泌は、日内変動なく一定である。
  - 学童期以降の女子で、年間成長率のピークは初経後に認められる。
- 23 炎症の症候でないのはどれか。
- 疼痛
  - 発熱
  - 黄疸
  - 腫脹
  - 機能障害
- 24 バイオテロに用いられる恐れがないのはどれか。
- 炭疽菌
  - ペスト菌
  - 野兎病菌
  - ポリオウイルス
  - 天然痘ウイルス
- 25 正しい組合せはどれか。
- フィラデルフィア染色体——急性骨髄性白血病
  - EBウイルス ——パーキットリンパ腫
  - N-myc増幅 ——網膜芽細胞腫
  - APC遺伝子 ——肺がん
  - ベンゼン ——中皮腫
- 26 放射線治療による晩期障害はどれか。2つ選べ。
- 食道炎
  - 口内炎
  - 腸閉塞
  - 白内障
  - 味覚低下

27 医原病でないのはどれか。

- a 外傷縫合後の二次感染
- b 長時間手術後の肺塞栓
- c 血圧計による皮下出血
- d 中心静脈カテーテルの感染
- e 抗菌薬点滴後の全身発赤

28 乳幼児突然死症候群のリスクファクターはどれか。3つ選べ。

- a 母乳栄養
- b 両親の喫煙
- c うつぶせ寝
- d 低出生体重児
- e インフルエンザ感染

29 消化器疾患と症候の組み合わせで正しいのはどれか。

- a 大腸癌-----血便
- b 胃潰瘍-----鮮血便
- c 胆管癌-----黒色便
- d 内痔核-----粘血便
- e 潰瘍性大腸炎-----灰白色便

30 末梢血に赤芽球を認めるのはどれか。2つ選べ。

- a 赤芽球癆
- b 骨髓線維症
- c 癌の骨髓転移
- d 再生不良性貧血
- e ヘモクロマトーシス

31 劣位半球徴候でないのはどれか。

- a 左右失認
- b 病態失認
- c 着衣失行
- d 半側身体失認
- e 半側視空間失認

32 急性心不全患者の診察所見として誤っているのはどれか。

- a 急性肺水腫では水泡性ラ音を聴取する。
- b 心音では奔馬調律が特徴的である。
- c 心原性ショックでは意識障害を伴う。
- d 患者は起座位をとることが多い。
- e 脈圧が増加する。

33 高齢者の末期変形性股関節症の所見として誤っているのはどれか。

- a 屈曲拘縮
- b 内転拘縮
- c 内旋拘縮
- d 患肢短縮
- e 大腿筋萎縮

34 分娩予定日の決定因子で最も有用なのはどれか。

- a 最終月経開始日
- b 性交日
- c 胎児心拍動確認日
- d 胎児頭殿長
- e 胎児大横径

35 梅毒の血清診断で特異的検査方法はどれか。2つ選べ。

- a 凝集法
- b TPHA法
- c ガラス板法
- d FTA-ABS法
- e PRPカード法

36 認知症が疑われる高齢者にまず施行すべき検査はどれか。

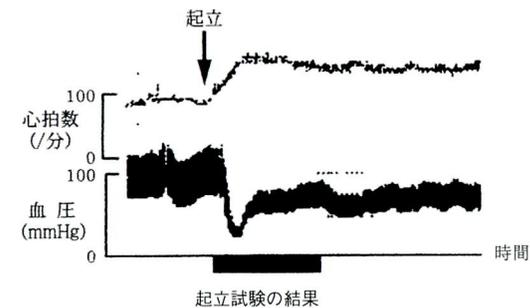
- a 文章完成法 (SCT)
- b 簡易精神症状評価尺度 (BPRS)
- c 内田・クレベリン精神作業検査
- d Minnesota多面人格検査 (MMPI)
- e Mini-Mental State Examination (MMSE)

- 37 成人糖尿病患者の指示エネルギー量の決定に必要な項目はどれか。
- 腹 囲
  - BMI
  - 体脂肪率
  - 標準体重
  - 現在の体重
- 38 次の症状、所見の治療に対する薬物の選択で誤っているのはどれか。
- 徐 脈-----アトロピン
  - 痙攣発作-----ジアゼパム
  - 低血圧-----エフェドリン
  - 意識障害-----ベクロニウム
  - モルヒネによる呼吸抑制-----ナロキソン
- 39 腎機能障害時に投与量の変更が必要でない薬剤はどれか。
- アテノロール
  - ジゴキシン
  - ゲンタマイシン
  - プロプラノロール
  - リチウム
- 40 傾眠、運動失語、構音・嚥下障害、右片麻痺を呈した脳梗塞患者のリハビリテーションで正しいのはどれか。
- 入院当日から作業療法を行う。
  - 入院1週間後から理学療法を行う。
  - 意識が改善するまで安静臥床とする。
  - 座位ができるまで言語訓練はできない。
  - 意識清明、座位ができるまで嚥下訓練は避ける。

- 41 56歳の男性。自宅の物置で倒れているところを家族が発見し、救急車で搬送された。来院時、発語はなく、舌根沈下が見られ、口腔内は分泌物が多量であった。意識はJCS100、体温35.6℃、呼吸は36/分、心拍数48/分、血圧90/40mmHg、発汗が著明で、呼気にニンニク臭を認めた。

この患者の所見で認められないのはどれか。

- 散 瞳
  - 振 戦
  - 喘 鳴
  - 筋線維攣縮
  - 血清コリンエステラーゼ低下
- 42 21歳の女性。立ちくらみを主訴に来院。6か月前より仰臥位から急に起立すると立ちくらみを起こす様になった。2週間の間に起立時に眼前暗黒感を伴って2回転倒した。来院時、意識は清明。身長161cm、体重47kg。脈拍84/分、整。血圧122/72mmHg。胸部所見に異常なし。神経学的所見に異常なし。起立試験の結果を示す。



本症例で異常と考えられる所見はどれか。2つ選べ。

- 起立前の血圧
- 起立前の脈圧
- 起立前の心拍数
- 起立1分後の血圧
- 起立1分後の心拍数

43 78歳の男性。昨日から排尿を認めないため、家族に付き添われて来院した。触診上、下腹部の緊満なく、導尿で30mlの尿の流出を認めた。

次に行うべき検査として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 血液生化学検査
- b 膀胱鏡検査
- c 腹部超音波検査
- d 排泄性腎尿路造影
- e 膀胱機能検査

44 65歳の男性。脳出血で倒れ、一時救急病院に入院していた。麻痺や認知症の症状はなく、会話もできていた。しかし、手指の感覚がわからず、「左手の薬指はどれですか？」と質問されても、右、左の区別ができず、どの指が薬指かわからない状態であった。また、字は読むことができても書けなかったり、簡単な計算もできない状態であった。

適切なのはどれか。

- a Anton症候群
- b 緊張病症候群
- c 閉じ込め症候群
- d Gerstmann症候群
- e Kliver-Bucy症候群

45 56歳の女性。主婦。IgA腎症による慢性腎不全のため通院中である。身長150cm、体重50kg、下肢浮腫有(1+)。血圧148/92 mmHg。血液所見：Hb 10.0 g/dl。血液生化学所見：尿素窒素60 mg/dl、クレアチニン5.2 mg/dl、HbA1c 5.5 %。

食事療法で適切なのはどれか。

- a 蛋白20g/日、塩分12g/日、1,500 kcal/日
- b 蛋白30g/日、塩分10g/日、1,500 kcal/日
- c 蛋白40g/日、塩分6g/日、1,500 kcal/日
- d 蛋白50g/日、塩分3g/日、1,800 kcal/日
- e 蛋白60g/日、塩分3g/日、1,800 kcal/日

46 生後3日の新生児。在胎39週、3,200 g、Apgarスコア9点(1分)で出生した。哺乳は良好で、排便、排尿も認められている。

診察上、異常な所見はどれか。

- a 心拍数68/分
- b 呼吸数43/分
- c 大泉門1.5×1.5cm
- d 右肋骨弓下に肝を1cm触知
- e 血清総ビリルビン7.0mg/dl

47 30歳の初産婦。分娩開始後8時間が経過した。子宮口は8cm開大し胎胞は触れず、大泉門を10時、小泉門を4時の位置に触知した。なおレオポルド触診第2段で胎児小部分を右側に触れる。

正しいのはどれか。

- a 第1前方後頭位
- b 第1後方後頭位
- c 矢状縫合は第1斜径に一致
- d 第2前方後頭位
- e 第2後方後頭位

48 53歳の男性。自宅で暗褐色の吐血をきたし、救急車で搬送され来院した。意識は不穏状態である。身長183cm、体重70kg、脈拍120/min、整、血圧83/40mmHg、皮膚は蒼白で冷たい。

血液所見：赤血球210万、Hb 6.7g/dl、Ht 21%、白血球9,400、血小板4.8万、PT 11.4秒(基準対照11.3)、APTT 32.1秒(基準対照32.2)、総蛋白6.8g/dl、アルブミン4.1g/dl。

この患者に適切な輸血はどれか。2つ選べ。

- a 新鮮凍結血漿
- b 自己血
- c 濃厚血小板
- d 近親者からの新鮮血
- e 赤血球濃厚液

49 48歳の女性。学童期から心雑音を指摘されていた。最近になって増悪する労作時の息切れ・動悸を主訴に来院。精査の結果、重症僧帽弁狭窄症と診断され、経皮的交連切開術（PTMC）の適応が検討された。

PTMCの適応と判断して良い合併症はどれか。

- a 心房細動
  - b 左房内血栓
  - c 左冠動脈主幹部狭窄
  - d 僧帽弁の両交連部の石灰化
  - e 中等度以上の僧帽弁閉鎖不全
- 50 68歳の男性。3年前から労作時の呼吸困難を自覚し、慢性閉塞性肺疾患（COPD）と診断され治療を受けていた。次第に症状が増強し、会話や衣服の着替えにも呼吸困難を自覚するようになったため入院した。酸素吸入、抗コリン薬の吸入により呼吸困難は徐々に改善され病状は安定していた。その時点の動脈血ガス分析（安静時、空気吸入下）はpH 7.38、PaCO<sub>2</sub> 44 Torr、PaO<sub>2</sub> 50 Torrである。

退院後の治療として最も適切なのはどれか。

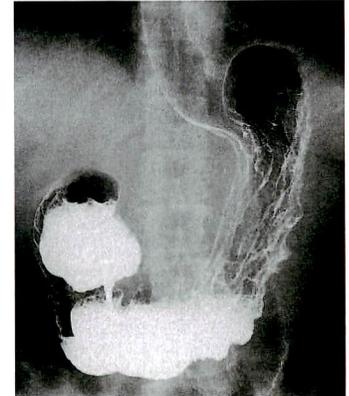
- a 去痰薬の投与
- b 抗菌薬の長期投与
- c 副腎皮質ステロイド薬の経口投与
- d 在宅酸素療法
- e 在宅人工呼吸療法

次の文を読み、51～53の問いに答えよ。

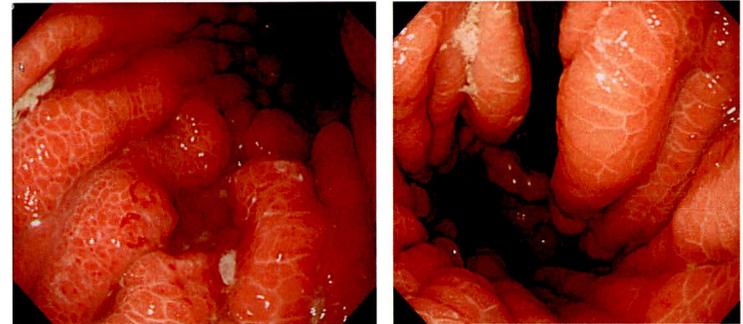
50歳の女性。心窩部痛、食欲不振、黒色便を主訴に来院した。身体診察所見では心窩部に圧痛が見られる以外、異常所見を認めない。血液検査では軽度の鉄欠乏性貧血をみとめるのみである。血清生化学検査:総蛋白6.4g/dl、アルブミン3.3g/dl、LDH 570 IU/l（基準 260-530）、尿素窒素16mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl、CEA 110 ng/ml（基準5以下）、CA19-9 225 U/ml（基準37以下）。

51 上部消化管造影検査と内視鏡検査を示す。診断はどれか。

- a 悪性リンパ腫
- b スキルス胃癌
- c Ménétrier病
- d 胃静脈瘤
- e 胃潰瘍



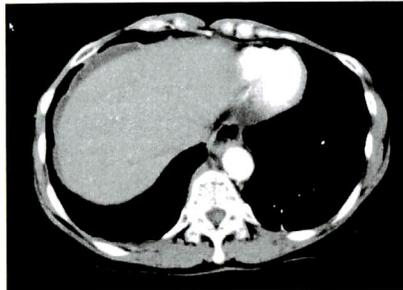
上部消化管造影検査



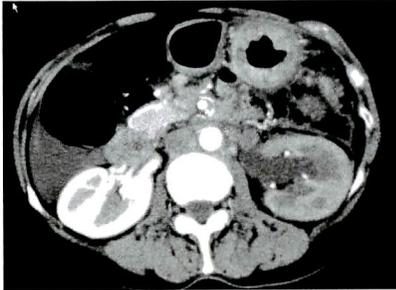
内視鏡検査

52 2枚の腹部造影CT画像を示す。みられないのはどれか。

- a 大動脈周囲リンパ節腫大
- b 胃壁肥厚
- c 水腎症
- d 腹水
- e 脾腫



CT画像



CT画像

53 治療法で正しいのはどれか。

- a *Helicobacter pylori* の除菌療法
- b プロトンポンプ阻害薬投与
- c 内視鏡的静脈瘤硬化療法
- d 外科的胃切除術
- e 化学療法

次の文を読み、54～56の問いに答えよ。

64歳の男性。胸部不快感を主訴に来院した。

現病歴：50歳代になって、数秒から数分持続する胸部不快を自覚していたが、健診でも異常を指摘されず精査を受けたことはない。最近、胸部不快を自覚する頻度が増加し、特に睡眠不足、飲酒の翌日等に症状が多くなった。昨晚、宴会で飲酒し、午前3時頃に胸部の不快感で目を覚ました。2時間安静にしても改善せず、不快感が増強してきたため来院した。

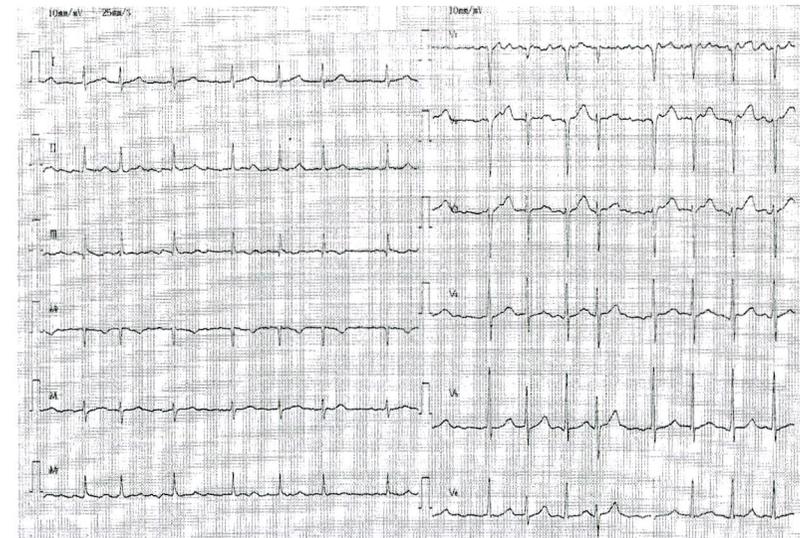
既往歴：50歳代から高血圧を指摘されているが、未治療。

生活歴：喫煙10本/日を30年間。飲酒は機会飲酒のみ。

現症：意識清明。身長174cm、体重79kg、体温36.5℃、血圧154/98mmHg、呼吸数24/分、脈拍96/分、不整。頸静脈怒張を認めず、眼瞼結膜に貧血なく、眼球結膜に黄疸を認めない。心、肺に雑音なし。肝、脾を触知せず、浮腫を認めない。神経学的異常所見はない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：白血球8,600、赤血球464万、Hb 14.6 g/dl、Ht 44%、血小板27万。血清生化学所見：総蛋白6.3 g/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、尿酸 6.9 mg/dl、総コレステロール 218 mg/dl、トリグリセリド 136 mg/dl、総ビリルビン 1.3 mg/dl、AST 39 IU/l、ALT 24 IU/l、Na 137 mEq/l、K 3.6 mEq/l、Cl 108 mEq/l、空腹時血糖 160 mg/dl、HbA1c 7.5%。

来院時の心電図を示す。



来院時の心電図

54 発作時の心電図で認められる異常所見はどれか。2つ選べ。

- a 鋸歯状粗動波
- b RR間隔の絶対不整
- c 心室内伝導障害
- d 頻発型心室性期外収縮
- e T波の平低化

55 本症例の塞栓症リスクとして考慮すべき因子はどれか。2つ選べ。

- a 肥満
- b 高血圧
- c 糖尿病
- d 脂質異常症
- e 喫煙

56 本症例に使用する薬物として誤っているのはどれか。

- a ジギタリス
- b プロカインアミド
- c エピネフリン
- d ヘパリン
- e ベラパミル

次の文を読み、57～59の問いに答えよ。

58歳の女性。1週間前からの目のかすみを主訴に来院した。

現病歴：1年前より全身倦怠感、1か月前より階段昇降時の息切れを自覚していた。20年前に健康診断で糖尿病と診断され、15年前より経口血糖降下薬を内服している。

現症：身長155cm、体重52kg。脈拍88/分、整。血圧166/98 mmHg。意識は清明。眼瞼結膜は蒼白であるが、眼球結膜に黄染は認めない。下腿に浮腫を認める。

家族歴：父親が糖尿病である。

検査所見：尿所見：蛋白3+、糖1+、ケトン体(－)、潜血反応(－)。血液所見：赤血球240万、Hb 8.0/dl、Ht 25%、白血球7,200、血小板18万。血液生化学所見：随時血糖値 165mg/dl、HbA1c 7.2% (基準4.3～5.8)、総蛋白5.8 g/dl、アルブミン2.5 g/dl、尿素窒素66 mg/dl、クレアチニン5.9 mg/dl、AST 32単位、ALT 24単位、ALP 420単位 (基準260以下)、アミラーゼ220単位 (基準37～160)。

57 身体診察で認められる可能性の高いのはどれか。3つ選べ。

- a 腸蠕動音亢進
- b 甲状腺腫大
- c 起立性低血圧
- d 網膜の新生血管
- e アキレス腱反射の低下

58 血液検査で高値を示すのはどれか。3つ選べ。

- a 尿酸
- b pH
- c リン
- d カリウム
- e カルシウム

59 食事療法で正しいのはどれか。

	エネルギー(/日)	塩分(/日)	タンパク質(/日)
a	1,200	6g	40 g
b	1,200	6g	60 g
c	1,200	8g	40 g
d	1,400	6g	40 g
e	1,400	8g	60 g
f	1,800	6g	40 g
g	1,800	6g	60 g
h	1,800	8g	60 g

次の文を読み、60～62の問に答えよ。

68歳の女性。独居である。右胸の悪臭を伴う潰瘍性変化に訪問した家族が気づき来院した。

現病歴：数か月前から右胸の発赤を自覚していたが放置していた。1か月前より咳嗽が出現し、歩行時の呼吸困難も自覚していた。既往歴・家族歴：特記すべきものなし。初潮12歳、閉経49歳。妊娠経験は無い。現症：身長155cm、体重36kg。呼吸数20/分。乾性の咳嗽を認める。血圧114/58mmHg。右胸部全体に悪臭を伴う潰瘍性病変を認めた(図1)。触診では、病変と胸郭の間に固定が認められた。腋窩に示指頭大の硬い連珠状に連なるリンパ節を複数認めた。潰瘍部を組織生検したところ浸潤性乳管癌(図2)と診断された。内分泌療法の適応を決定する目的に、エストロゲン受容体(ER)の有無を免疫組織染色(図3)で確認した(対照(図4)を併記)。



図1 潰瘍性病変

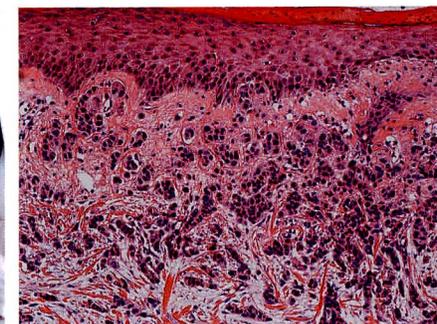


図2 浸潤性乳管癌

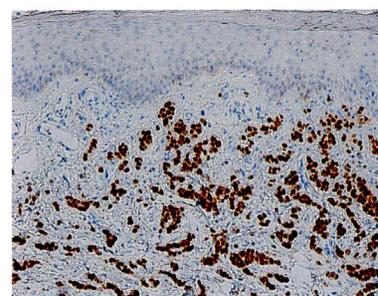


図3 免疫組織染色

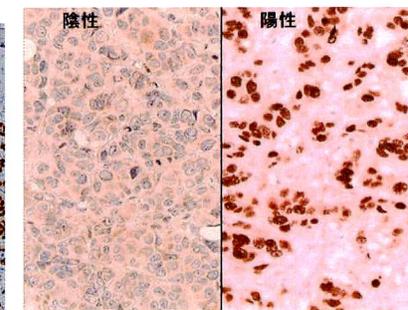


図4

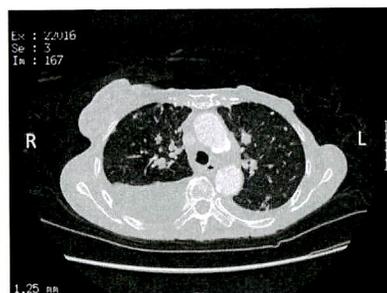
60 来院時の胸部造影CTを示す。

認められる所見はどれか。2つ選べ。

- a 胸水
- b 肺水腫
- c 多発性肺腫瘍
- d 多発性肝腫瘍
- e 心タンポナーデ



胸部造影CT



胸部造影CT

61 病期はどれか。

- a 病期 0
- b 病期 I
- c 病期 II
- d 病期 III
- e 病期 IV

62 免疫染色検査の結果、本症例に対する正しい内分泌療法はどれか。2つ選べ。

- a 卵巣摘除術
- b 抗エストロゲン薬
- c アロマターゼ阻害薬
- d LH-RHアゴニスト
- e 内分泌療法の適応なし